

経済・金融 フラッシュ

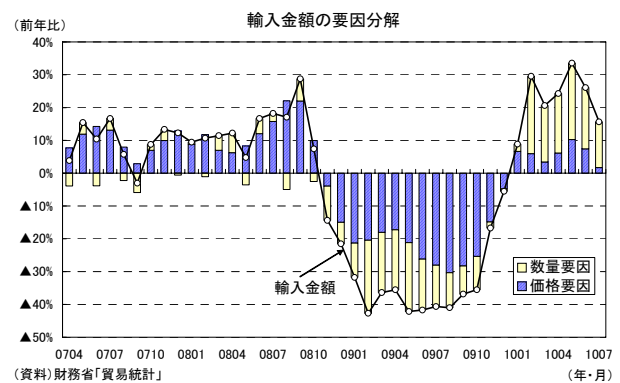
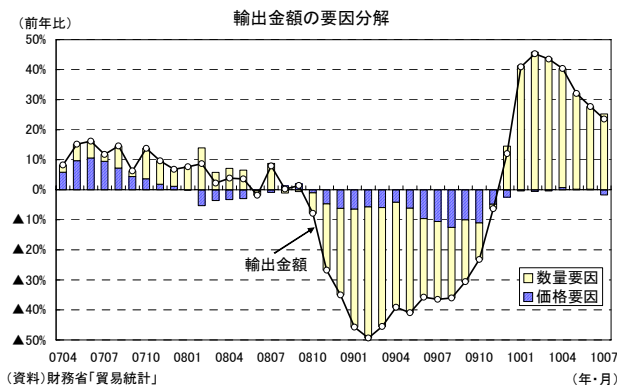
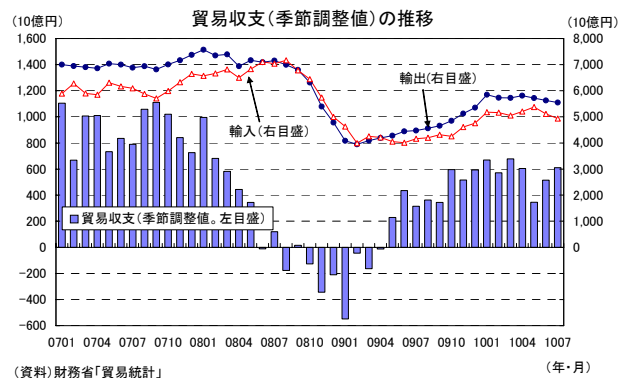
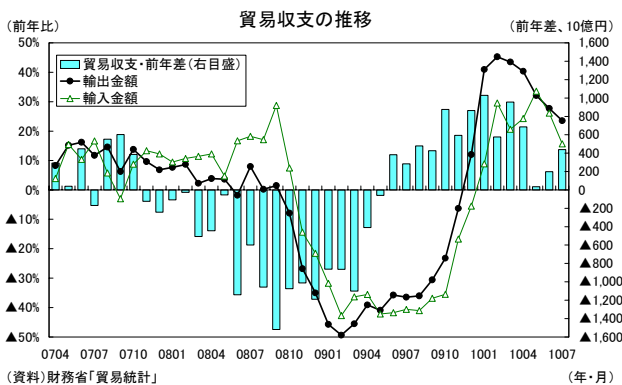
貿易統計 10年7月 ～輸出は減速局面へ

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易黒字は市場予想を上回る

財務省が8月25日に公表した貿易統計によると、7月の貿易収支は8,042億円の黒字となり、14ヵ月連続で前年の水準を上回った。事前の市場予想（ロイター集計：4,588億円、当社予想は5,418億円）を上回る結果であった。2008年秋のリーマン・ショック以降の急速な落ち込みの反動増の局面が終了しつつあるため、輸出（6月：前年比27.7%→7月：同23.5%）、輸入（6月：前年比26.1%→7月：同15.7%）ともに前年比の伸びは低下したが、輸入の低下幅が大きかったため、前年に比べた貿易収支の改善幅は前月よりも改善した。季節調整済の貿易収支は6,104億円と15ヵ月連続の黒字となり、黒字幅は前月の5,145億円から拡大した。



輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比25.5%（6月：同27.5%）、輸出価

格が前年比▲1.5%（6月：同0.2%）であった。輸入の内訳は、輸入数量が前年比13.8%（6月：同18.1%）、輸入価格が前年比1.6%（6月：同6.8%）であった。

2. アジア向け輸出が低調

自動車輸出は前年比27.1%となり、6月の同40.0%から伸びが低下した。米国向け（6月：前年比17.6%→7月：同20.2%）は伸びが若干高まったが、アジア向け（6月：前年比55.2%→7月：同40.9%）の増加幅が縮小し、EU向け（6月：前年比▲15.6%→7月：同▲12.1%）は2ヵ月連続で減少した。

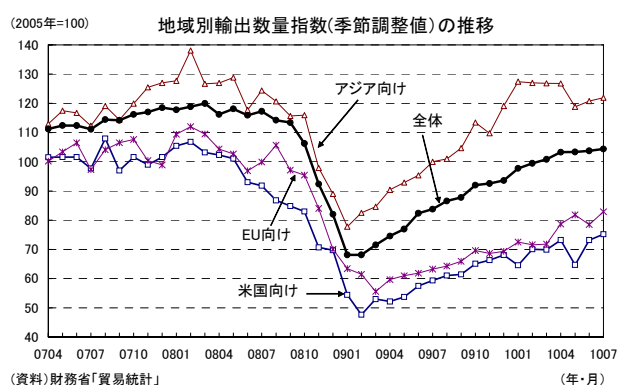
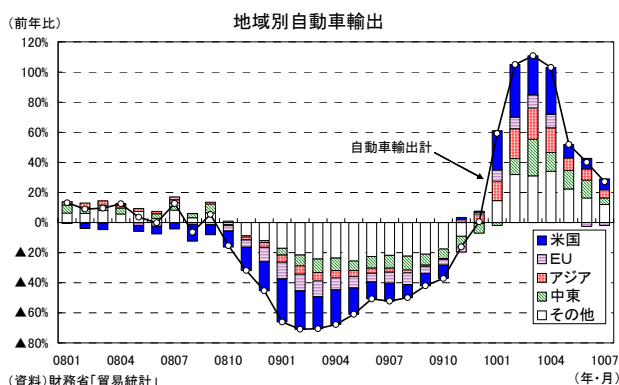
7月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比27.4%（6月：同27.4%）、EU向けが前年比31.6%（6月：同27.2%）、アジア向けが前年比22.9%（6月：同26.6%）となった。

季節調整値（当研究所による試算値）では、米国向けが前月比2.7%、EU向けが同5.6%、アジア向けが同1.0%、全体では同0.6%となった。4-6月期に対する7月の水準は米国向けが6.8%、EU向けが4.0%、アジア向けが▲0.1%、全体では0.9%となっている。

輸出数量は全体としては上昇基調を維持しているものの、上昇ペースはここにきて鈍化してきている。米国向け、EU向けの輸出は今のところ堅調を維持しているが、米国経済が停滞色を強めていることに加え、ドル安、ユーロ安が進んでいることもあり、先行きは減速に向かうことが予想される。こうした中、輸出の牽引役となっていた中国を中心としたアジア向け輸出が低調な動きとなっていることは先行きの輸出動向を見る上で懸念材料と言えよう。

輸入数量指数（季節調整値）は前月比0.0%の横ばいとなった。国内の増産ペースの鈍化を背景に輸入の伸びも低下しつつある。

4-6月期のGDPベースの外需寄与度は前期比0.3%と5四半期連続でプラスとなったが、1-3月期の同0.6%からはプラス幅が縮小した。7-9月期は輸出の伸びが4-6月期の前期比5.9%から大きく低下することにより、外需寄与度はさらに縮小する可能性が高い。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。